

---

# 桜の木の下で

琉姫亜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桜の木の下で

### 【Nコード】

N1871Q

### 【作者名】

琉姫亜

### 【あらすじ】

高校に入学した、真琴。男前で気が強い。

15年間生きてきて、一度も彼氏ができたことがない。

高校では、絶対に彼氏をつくってみせると宣言した真琴だったが・

果たして真琴には 彼氏ができるのか?!



## 第一話 入学式

ピピピピッ 目覚まし時計が鳴り響いた。

重い瞼を開けて、目覚まし時計に目をやると7時45分をさしていた。

「やばっ！目覚ましセットする時間間違えた！」

私は、あわてて制服に着替えてリビングに向かった。

リビングのテーブルには、朝食が用意されていた。お母さんは毎朝6時に仕事に行っているのではない。

時間ないから、牛乳だけでいいや。私は牛乳を一気飲みして家を出た。

走って学校に向かった。私の学校は、家から歩いて10分ぐらいの所にある桜木学園。

桜木学園という名前は、春になるとたくさんの桜の木が満開に咲くかららしい。

私は、近道するため公園を突っ切った。公園の桜は満開だった。すると同じ制服を着た男の子が立っていた。どうやら、桜をながめているらしい。入学式が始まるというのに。

私の足音が聞こえたのか、男の子が振り向いた。

私は、どきつとした。すらっとした顔に、太陽に照らされて茶色く光るサラサラの髪。

まるで、漫画に出てくるような人だった。

私が、啞然としていると

「桜って綺麗だよな。空の水色のキャンパスにピンクの絵の具ではあーって書いたみたいでさ」

「うん、うん」

私はあわてて答えた。すると

「あ、早くしねえーと遅刻すつぞ」

あ、やばい。男の子に見とれてて忘れてた。私は走って学校に向かった。

また、あの男の子に会えるかな・・・

私は、それからずっとその男の子のことを考えていた。

学校に着いた。 8時20分。入学式は8時30分からなのでぎりぎりセーフ。

ほっとしながら玄関に向かうと、幼なじみの鈴木桃乃が走ってきた。

「真琴ー、入学早々遅刻かと思ったよー」

「目覚ましセットする時間間違えちゃって〜」

「相変わらずのおっちょこちょいだな、真琴は」

桃乃は呆れたような顔で言った。

「まあ、それは置いといて、何組？」

「あたしは、A組。真琴もAだよ」

「えっ？まじで？やったー」

「また、うるさくなりそうだな〜」

「いいじゃん、別に」

「まあ、いいか教室行こう」

「うん」

私と桃乃は教室に向かった。教室に入ると、ほとんどの生徒が座っていた。

席は、出席番号順らしい。私の名字は岡田だから結構廊下側だ。桃乃は鈴木だから真ん中あたり。

桃乃と離れちゃったけど、しよーがない。チャイムが鳴ったので席に着いた。

ほぼ、チャイムと同時に先生が入ってきた。

「えー、A組の担任の山田だ。出席をとるぞ。返事をしてくれ」

先生は出席をとり始めた。ふと、隣を見ると席が空いている。

休みなのかな。そう思っていると先生がその席の人の名前を呼んだ。

「工藤ー、あれ？いないのか」

先生がそう言った瞬間、教室のドアが勢いよく開いた。

教室に入ってきたのはその工藤という人らしい。

「はあ、はあ、工藤です！ギリセーフすよね！？」

「ギリセーフではない。遅刻だ。入学早々遅刻とはまったく」

呆れた顔で先生は言った。工藤という人は手で顔を仰ぎながら席に着いた。

横目で見ると、汗をすごくかいていた。よく見ると、茶髪だった。

染めたのかなと思っていると、目が合った。

「あ、俺は工藤龍夜っていうんだ。よろしく。名前は？」

「えっ、あ、岡田真琴です。よろ、しく」

「真琴っていうんだ、なんか男みてえーだなっ」

「よく言われますよ」

「そうなのか。まあよろしく」

工藤君とは、すぐに仲良くなった。

それから 体育館で入学式が始まった。

これから楽しい高校生活が始まる。



## 第一話 入学式（後書き）

初心者なので、下手くそです。 すいません。

誤字脱字があったら すみません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1871q/>

---

桜の木の下で

2011年10月8日15時18分発行